

学士課程における教育の基本方針

〔2017年1月27日〕

〔放送大学決定〕

改正 2024年1月16日、2024年5月23日

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

所定の単位を修得し必要な修業年限を満たした上で、次に掲げる学修目標に到達したと認められた学生に学士（教養）の学位を授与する。

1. 専攻する学問領域における基本的な知識を体系的に習得している。
2. 人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い教養を涵養し、単一の学問領域内の知識を超えた複眼的な視点を身につけている。
3. 論理的思考に基づいて、職場や日々の生活等で生じる様々な課題を発見し、問題を解決するための糸口を見出すことができる。
4. あらゆる場面において、倫理観をもち、責任ある行動をとる能力を身につけている。
5. 国際的な視野、文化の多様性への理解、自然環境への配慮のもとに、社会に貢献する姿勢を身につけている。

（*各コースに関連した分野の社会における顕在・潜在ニーズを踏まえたコースごとの「専攻する学問領域における基本的な知識」及び「人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い教養」は、以下のとおり。）

生活と福祉 コース	【専攻する特定の学問領域における基本的な知識】 衣食住・家族・健康・福祉等生活に関わる諸問題に関する概念と知識。 【人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い知識】 現代社会における衣食住・家族・健康・福祉等生活に関わる諸問題の理解と実践に関する幅広い知識。
心理と教育 コース	【専攻する特定の学問領域における基本的な知識】 人間の心と発達、教育に関わる複雑な諸問題に関する概念と知識。 【人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い知識】 現代社会における教育や発達の理解と支援に関する幅広い知識。
社会と産業 コース	【専攻する特定の学問領域における基本的な知識】 社会と産業の基本的なしくみに関する専門的な知識や、持続可能で豊かな社会を生きるための技術。 【人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い知識】 社会と産業のしくみに関する学際的な知識や、持続可能で豊かな社会に関する幅広い技術。
人間と文化 コース	【専攻する特定の学問領域における基本的な知識】 思想・芸術・歴史・文学をはじめ、人間の生み出した文化のありかたに関する知識。 【人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い知識】 人間の生み出した文化に関する様々な学問分野についての知識や方法についての幅広い知識。
情報 コース	【専攻する特定の学問領域における基本的な知識】 情報学に関する知識と技術。 【人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い知識】 実際的な問題解決に必要な人文・社会科学、工学、自然科学に関する知識。
自然と環境 コース	【専攻する特定の学問領域における基本的な知識】 科学的根拠に基づく自然の様相に関する知識。 【人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い知識】 人間活動と自然との関わり合いや持続可能な未来に向けた実践と判断に関する知識。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

【教育課程編成】

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針で教育課程を編成・実施する。

<授業科目の区分と目標>

- ・各コースでの学習に必要な基礎的な知識・能力あるいはリテラシーを学び、学習への意欲を一層強め、併せて、今日の社会において必要となる基礎的教養を身につける〔基盤科目〕を設け、所定単位修得を必修とする。
- ・基盤科目で学んだ基礎的な知識・能力を深め、各コースで開設される科目を効率的に学習するために、コースを構成する各学問分野の導入的な知識・能力を身につける〔導入科目〕を設ける。
- ・各コースの学問分野における専門的な知識、技能、思考方法を身につける〔専門科目〕を設ける。
- ・学際的な知識、技能を身につけ、単一の学問領域内での学習を超えた複眼的な視点を養うために、〔総合科目〕を設ける。

<複眼的視点を身につける修得上の要件>

- ・〔導入科目〕〔専門科目〕及び〔総合科目〕のうち、所属するコース以外が開設した科目を最低単位数以上修得することを必修とし、異なる学問領域の視点を学び、複眼的な視点、学際的な知識を養う。

<多様な授業形態と修得上の要件>

- ・授業は、テレビ・ラジオ及び印刷教材による放送授業、インターネットを活用したオンライン授業、教員と直接対面して行う面接授業、自宅等においてパソコン等を用いて同時双方向で受講するライブ Web 授業の4つの形態で実施する。
- ・放送授業だけではなく、他者と協働した学びや能動的な学習を可能とする双方向性を確保した面接授業、オンライン授業、ライブ Web 授業のいずれかによる所定単位修得を必修とする。
- ・放送授業では実施しにくい、課題発見・問題解決のスキルの修得、課題に向き合う姿勢、他者との協調・コミュニケーション能力の育成を対面の面接授業、オンライン授業、ライブ Web 授業で補う。

<ナンバリングとリメディアルによる履修支援>

- ・授業科目のナンバリングによって教育課程の体系を明示し、合理的で円滑な履修を支援する。
- ・各コースでの学習に必要な基礎的な知識・能力あるいはリテラシーを学ぶためのリメディアル教育の場として、自己学習用の e ラーニング教材である自己学習サイトを設け、自発的学習が可能なことを周知する。

【学修成果の評価方法】

シラバスで提示する各授業目標の達成度について基準を設け、試験、レポート等によって評価する。

（*各コースにおける各学問領域の専門的な知識・能力については、以下のとおり。）

生活と福祉 コース	衣食住・家族・健康・福祉等生活に関わる諸問題についての専門的な知識。
心理と教育 コース	教育系、心理系、臨床心理系の3つの領域から構成される、広く人間の発達や教育に関わる問題についての専門的・総合的な知識。
社会と産業 コース	社会と産業のしくみについての専門的及び学際的な知識や、持続可能で豊かな社会を生きるための幅広い技術。
人間と文化 コース	人間の生み出した文化に関する様々な領域についての専門的な知識。
情報 コース	情報の数理的側面・処理・機構・技術と、情報と人間・社会との関わりについての専門的知識。
自然と環境 コース	科学的根拠に基づく自然の様相及び人間活動と自然との関わり合いについての専門的な知識。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学の教育理念である、広く国民に高等教育の機会を提供することを達成するために、入学試験を行わず、以下のような学生を求める。

1. 入学後の学習内容を理解できる、高等学校卒業程度の知識と能力を有していること。
2. メディアを活用した学修に積極的に取り組む意欲とその持続力があること。

また、本学における学習をより効果的なものとするため、入学にあたっては以下のことが望まれる。

- ・多様な背景をもつ学生と共に学ぶ姿勢をもつこと。
- ・入学前に学習意欲を高めるために、本学が公開している授業科目を受講すること。

放送大学教養学部 学士課程DPとCPの対応一覧表

本学では、設立の趣旨等を踏まえて、各教育課程における教育の基本方針を策定し、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー：DP）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー：CP）および「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー：AP）を示しています。これら三つのポリシーは相互に関連し、一貫性を持って策定されています。特にDPとCPには、卒業・学位授与までに学生が身につけるべき資質・能力とともに、それらを達成するための教育課程の編成・実施方法、および学修成果の評価方法が具体的に示されています。以下の表は、DPの各項目に対応するCPの主な関係性を示したものです。この表を参考に、自身が学ぶ教育課程の目標と構造を理解し、計画的な学修活動に取り組んでください。

	CPとの関連性									
	CP1				CP2	CP3			CP4	
	1-1	1-2	1-3	1-4		3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
DP1. 専攻する学問領域における基本的な知識を体系的に習得している。	◎	◎	◎			○			◎	◎
DP2. 人文・社会・自然の各学問分野を中核とする幅広い教養を涵養し、単一の学問領域内の知識を超えた複眼的な視点を身につけている。				◎	◎	○				
DP3. 論理的思考に基づいて、職場や日々の生活等で生じる様々な課題を発見し、問題を解決するための糸口を見出すことができる。					○	○	◎	◎		
DP4. あらゆる場面において、倫理観をもち、責任ある行動をとる能力を身につけている。					○	○	◎	◎		
DP5. 国際的な視野、文化の多様性への理解、自然環境への配慮のもとに、社会に貢献する姿勢を身につけている。	◎			◎	○	○	○	◎		

※◎（強い関連）、○（関連あり）

CP1 ＜授業科目の区分と目標＞	1-1 各コースでの学習に必要な基礎的な知識・能力あるいはリテラシーを学び、学習への意欲を一層強め、併せて、今日の社会において必要となる基礎的教養を身につける〔基盤科目〕を設け、所定単位修得を必修とする。
	1-2 基盤科目で学んだ基礎的な知識・能力を深め、各コースで開設される科目を効率的に学習するために、コースを構成する各学問分野の導入的な知識・能力を身につける〔導入科目〕を設ける。
	1-3 各コースの学問分野における専門的な知識、技能、思考方法を身につける〔専門科目〕を設ける。
	1-4 学際的な知識、技能を身につけ、単一の学問領域内での学習を超えた複眼的な視点を養うために、〔総合科目〕を設ける。
CP2 ＜複眼的視点を身につける修得上の要件＞	2 〔導入科目〕〔専門科目〕及び〔総合科目〕のうち、所属するコース以外が開設した科目を最低単位数以上修得することを必修とし、異なる学問領域の視点を学び、複眼的な視点、学際的な知識を養う。
CP3 ＜多様な授業形態と修得上の要件＞	3-1 授業は、テレビ・ラジオ及び印刷教材による放送授業、インターネットを活用したオンライン授業、教員と直接対面して行う面接授業、自宅等においてパソコン等を用いて同時双方向で受講するライブWeb授業の4つの形態で実施する。
	3-2 放送授業だけでなく、他者と協働した学びや能動的な学習を可能とする双方向性を確保した面接授業、オンライン授業、ライブWeb授業のいずれかによる所定単位修得を必修とする。
	3-3 放送授業では実施しにくい、課題発見・問題解決のスキルの修得、課題に向き合う姿勢、他者との協調・コミュニケーション能力の育成を対面の面接授業、オンライン授業、ライブWeb授業で補う。
CP4 ＜ナンバリングとリメディアルによる履修支援＞	4-1 授業科目のナンバリングによって教育課程の体系を明示し、合理的で円滑な履修を支援する。
	4-2 各コースでの学習に必要な基礎的な知識・能力あるいはリテラシーを学ぶためのリメディアル教育の場として、自己学習用のeラーニング教材である自己学習サイトを設け、自発的学習が可能なることを周知する。